

「みんなで勉強」から始める鳥獣被害対策

近年、問題となっている鳥獣被害ですが、なぜ拡大したのでしょうか？

< 推測の一人歩き >

温暖化、暖冬化
人工林(スギ、ヒノキ)の増加
狩猟者の減少

< 実際は？ >

九州に限らず、全国で被害は激化。
人工林が増加すれば、えさが減る。
狩猟者は減少しているが、捕獲数は年々増加。



宮崎県の狩猟者登録数と捕獲数の推移

原因をきちんと理解せずに、有害鳥獣捕獲や大規模柵の設置だけ行っても、根本的な被害軽減に繋がりません。

どうして増える？鳥獣被害
～まずは被害の原因を考えてみましょう！～

被害が増えた本当の原因とは？ 集落や農地への「餌付け」が進行しただけ！！

何で集落や農地への「餌付け」が進むの？

学習1 集落や農地に来るとお腹いっぱい食べられる

学習2 人間や車は怖くない → 人慣れ学習

この2つを野生動物が学習し、集落や農地への「餌付け」が進みます。

集落や農地にはどんなエサがあるの？

動物が食べたら人が怒るエサ(農作物)

動物が食べても誰も怒らないエサ(無自覚のエサ)

…実は集落や農地には、「怒られないエサ」がたくさん！

これらはすべて
野生動物にとって
美味しいエサ



写真1 稲刈り後の水稲のヒコバエ



写真2 捨てられた規格外農作物



写真3 誰も収穫しない果樹



写真4 捨てられたダイコンに群がる野生のサル

これが「餌付け」の実態です。
放置すれば、加害個体が増加し、被害の激化に繋がります！！

鳥獣被害対策とは？ → みんなで「餌付け」をやめること！！

「餌付け」をやめるには、農地や集落をエサ場と認識させないように「怒られないエサ」を徹底して無くし、「人や車が怖い！！」と動物に思わせるようみんなで追い払いをすることが必要です。

鳥獣被害対策は取り組み順序が大事！！

1 番目 『みんなで勉強』

激化の原因、何が餌付けかなどを住民が理解

2 番目 『守れる畑、守れる集落作り』

努力が実る環境作り

3 番目 『個人や集落での囲いや追い払い』

各自が取り組めるメニューを考える

4 番目 『コストや特殊技術を要する対策』

大規模な柵や捕獲対策



写真5 研修会(みんなで勉強)の様子

被害対策は、3番目、4番目からはじめても、動物は集落に来続け、なかなか被害は止まりません。

1番目の「みんなで勉強」、2番目の「守れる農地・集落づくり」の順に取り組ましましょう！